

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520046

研究課題名(和文) マハーラーシュトラ州におけるヒンドゥー教巡礼地の研究

研究課題名(英文) The Study of the Hindu places for Pilgrimage in Maharashtra

研究代表者

山口 しのぶ(YAMAGUCHI SHINOBU)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：70319226

研究分野：南アジアの宗教儀礼、宗教図像

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：巡礼地、シヴァ、リンガ、ガネーシャ、マハーラーシュトラ、ジョーティル・リンガ

## 1. 研究計画の概要

本研究は、西インド、マハーラーシュトラ州におけるヒンドゥー教巡礼地のうち、特にシヴァ神およびガネーシャ神の寺院に関して、現代ヒンドゥイズムの巡礼地の現状と社会的機能を明らかにするとともに、ヒンドゥイズム巡礼地における汎インド的要素と地方的要素の関係性を明らかにすることを目的とする。そのため本研究においては、シヴァ神の巡礼地「12 ジョーティル・リンガ」のうちマハーラーシュトラ州にある複数の寺院、およびガネーシャ神の巡礼地「8 ヴィナヤク」を取り上げ、現地調査と文献研究を行う。

(1) 現地調査に関しては、ジョーティル・リンガについてはマハーラーシュトラ州にある5つのリンガ寺院を調査し、成立の歴史、寺院構造、儀礼行為等の分析より現状及び社会的機能を考察する。8 ヴィナヤクについては、州内の8つの寺院を調査し成立過程や儀礼行為等の現状を明らかにする。

(2) また文献研究に関してはプラーナ文献等のサンスクリット文献やヒンディー、マラーティー語等の文献の関連箇所の内容検討を行う。また関連文献の記述よりこの地域のガネーシャ信仰について考察する。

(3) 以上の(1)(2)およびネパールのシヴァ信仰との比較により、現代ヒンドゥイズムにおける巡礼地の役割と、巡礼地における汎インド的要素と地方的要素の相違と関連性を探る。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 現地調査に関しては、平成 20 年度にはインドに2度出張し、マハーラーシュトラ州

にある5つ全てのジョーティル・リンガ寺院および比較対象としてアーンドラ・プラデーシュ州のジョーティル・リンガ寺院を調査した。これらの調査からジョーティル・リンガ寺院の巡礼や礼拝の実態がある程度明らかになった。また8 ヴィナヤク寺院についても同時期に調査を行い資料収集も行った。平成 21 年度、22 年度においてはマハーラーシュトラ州と比較考察を行うためネパール、カトマンドゥ盆地におけるシヴァ神、ガネーシャ神および関連の女神を祀る寺院を調査しインフォーマントからの情報や映像資料等の収集を行った。ネパールとの比較においては、タントリックな要素を含むネパールに対し、その要素を含まないマハーラーシュトラ州の信仰形態の特色が明らかとなった。

(2) 文献研究に関しては、大部のプラーナ文献等のヒンドゥイズムの文献資料からリンガ崇拜、シヴァ崇拜、ガネーシャ崇拜に関する記述を整理し、そこに述べられるシヴァ・リンガ崇拜の性格およびリンガの象徴性等について考察を行った。特に『シヴァ・プラーナ』第4巻「コーティ・ルドラ・サンヒター」に述べられる12 ジョーティル・リンガ寺院の縁起譚やリンガ供養の形式などを詳細に分析し、その特色を考察するとともに古典文献に述べられた寺院縁起や礼拝式などが現代インドのヒンドゥー寺院における信仰形態にどの程度の痕跡を留めているかを考察する材料を得ることができたと思われる。

(3) 現在まで以上の(1)、(2)を踏まえ、現代ヒンドゥイズムにおけるシヴァ神を中心とする信仰形態の現状と特色、およびそこにおける汎インド的要素と地方的要素との比

較等の考察をある程度まで進めてきており、中間考察として学会発表および論文発表等を行ってきた。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由) インド、ネパールにおける現地調査は現在まで現地に大きな社会不安もなく順調に進行してきており、十分な資料も入手できた。またそれを踏まえての考察や文献研究もある程度順調に進んでいると考えられる。特に当初の計画に追加してネパールのヒンドゥー教を視野に入れて研究を進めたことは、ヒンドゥーを南アジア全体から効果的に見る手立てを与え、課題であるマハーラーシュトラ州の特色を浮き彫りにできると思うので、判断としては妥当であったと考えられる。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 現地調査に関しては、最終年度である平成 23 年度はインド、ネパール両地域に再び出張し、現在まで生じた疑問を明らかにするために僧侶等のインフォーマントおよび現地研究者への聞き取り調査に重点を置く。

(2) 文献研究に関しては、現在までは現地調査の補助的手段として行っているが、今後は『シヴァ・プラーナ』のジョーティル・リングガを記述した部分の和訳・註解など、文献学的な成果も発表していくことに重点をおいて進めていきたい。

(3) 以上(1)、(2)を踏まえての考察に関しては、現代ヒンドゥイズムにおける信仰形態の現状についてはある程度なされているが、汎インド的要素と地方的要素との関連性の考察はまだ不十分と思われるので、特に後者の考察を重点的に行っていきたい。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

山口しのぶ、ネパール仏教の死者儀礼、日本佛教学会年報、査読有、75号、2010、99～111

山口しのぶ、12 ジョーティル・リングガ寺院について マハーラーシュトラ州グリシュネーシュヴァル寺院を中心として、印度学仏教学研究、査読有、57巻1号、2008、262～268

山口しのぶ、南アジアの寺院縁起 ヒン

ドゥー教シヴァ・リングガ崇拜の神話と巡礼、査読無、アジア遊学、115号、2008、32～41

[学会発表](計2件)

山口しのぶ、ネパール仏教の死者儀礼、日本佛教学会 2009 年度学術大会、2009 年 9 月 16 日、立正大学

山口しのぶ、12 ジョーティル・リングガ寺院について、日本印度学仏教学会第 59 回学術大会、2008 年 9 月 4 日、愛知学院大学

[図書](計1件)

山口しのぶ、藤巻一宏他、勉誠出版、聖地と聖人の東西 起源はいかに語られるか、2011 年刊行予定、掲載決定、印刷中